

棚田学会通信

第28号 2009年6月28日
 発行/棚田学会
 〒184-8577 東京都小金井市本町6-5-3
 (ふるさときやらばん内)
 TEL:042-381-6721 FAX:042-383-8614



国立公園「氷ノ山の棚田」(鳥取県若桜町)

◆巻頭言2
 国立公園氷ノ山の棚田.....鳥取県若桜町町長 小林 昌司

◆会員通信3
 出前講座「棚田から環境と食糧問題を考える～持続可能な社会を後世へ～」
棚田学会理事 安井 一臣
愛媛大学農学部教授 鶴見 武道

第19回現地研究会・見学会報告「葦野の棚田」
京都市文化芸術都市推進室文化財保護課 青山 淳二

◆日本の棚田百選紹介6
 宮城県丸森町一沢尻の棚田.....宮城県仙台市在住 村越 康彦

◆特別寄稿7
 上流は下流を思い下流は上流に感謝する思想を国民運動に
全国水源の里連絡協議会会長 綾部市長 四方八洲男

◆書籍紹介8
 『静岡の棚田研究 その恵と営み』.....弘重 穰 (東京農工大学大学院連合農学研究科)

事務局ニュース

- 10周年記念大会開催概要
- 理事改選について
- 編集後記

巻頭言

ひょうのせん
 国定公園 氷ノ山の棚田 (鳥取県若桜町)

＝雄大な自然の中に・・・
 棚田を守り地域に活力を＝

鳥取県若桜町長 小林 昌司

1. 若桜町の概要

若桜町は、鳥取県の東南端に位置し、兵庫県と岡山県にも接しております。町の中心部には八東川が流れており、この川に沿って鳥取市と姫路市を結ぶ国道29号が走っております。総面積は199km²で、面積の95%は森林で占められ、その内のおよそ4分の1が国有林であります。昭和35年頃には1万人だった人口が、若年層の流出が目立ち、現在は、4,300人まで減少し、高齢化率は40%にまで達している。

町は中国山地の東にたたずむ山里で、特に国定公園氷ノ山(1,510m)は若桜氷ノ山スキー場があり、豊富な積雪量を誇り、県西部の大山とともに西日本のスキーのメッカでもあります。

因幡から播磨、但馬へ続く交通の要所としても栄えており、かつての宿場町として発展してきました。

若桜宿を一望できる「鶴尾山」の山頂には、若桜鬼ヶ城跡があり、1600年に山崎家盛氏によって築城されたもので、国の史跡に指定されています。若桜町は自然と歴史・文化が融合し、さまざまな観光資源にも恵まれています。若桜鉄道の転車台(列車の方向転換するターンテーブル)やSLなど新たな観光資源も掘り起こし、「健康で文化的な生活を営むことができる町」を基本目標に活力ある町づくりに努めております。

2. 菴米(つくよね)地区

兵庫県に接するこの菴米地区は、県境にそびえ、標高1,510mの氷ノ山西斜面中腹、標高600mという高所に点在する集落である。スキー場は古く、1962年に800m地点にリフトが完成してからゲレンデスキー場として生まれかわった。

また、昭和63年には町営の樹氷スノーピアのスキー場がオープン、さらには平成11年には「氷ノ山高原の宿氷太くん」、日本最大級の夜の森のジオラマ「響の森」がオープンし観光客でにぎわっている。この「わかさ氷ノ山ふれあいの里」は、雄大な自然あふれる国定公園氷ノ山の懐に広がり、鳥取県東部を代表する観光スポットです。宿泊とスポーツの拠点「氷ノ山高原の宿氷太くん」、自然をまるごと楽しみながら体感できる「氷ノ山自然ふれあい館響の森」、県内最大規模の「わかさ氷ノ山キャンプ場」「スキー場」、自然探勝路、登山道など四季を通じて楽しめる和みの里となっています。

この氷ノ山スキー場付近一帯は棚田が三地区にわかれ拓かれており、平成11年7月、この棚田(つくよね)が「日本の棚田百選」に認定され、今日まで

この棚田を維持してきました。しかし高齢化の波がおし寄せ、若年層の流出が目立って維持することが困難となってきている。同時にイノシシ、鹿、熊などの鳥獣被害に一層拍車がかかっている。

しかしながら、近年、きれいな水、昼と夜の寒暖の差のある高冷地の米はおいしいと評判になり、にわか「棚田米」が脚光を浴びております。

特に町が経営する宿泊施設「氷ノ山高原の宿氷太くん」のレストランのベランダから眺めると、「日本の棚田百選」(つくよね)を一望することができます。

3. これまでの棚田支援の取り組み

平成10年頃から県、若桜町が中心になって若桜氷ノ山棚田支援隊を毎年結成して、春の田植え、畦の草刈り、稲刈り等を行ってきました。

しかしながら、支援隊と言いつつも鳥取市や郡内の公務員の関係の方が多く、真の市民による棚田支援隊ではなく、年々参加者が激減してしまいました。そして、4～5年前から支援隊はいつともなしに打ち切られた。

この原因は、余りにも行政サイドで物を運び過ぎた事も要因したと思われるが、やはり地域の人の熱意が伝わっていない様に思えました。

特に感じられたのは、山間地の棚田のある地域では毎年鳥獣により、水稻、果樹、野菜等や森林被害に悩まされており、特に近年はイノシシに加え、鹿の被害が増加傾向にあり、この対策として、有害駆除、猟友会への補助、防護柵の設置補助、鈴の配布をして来ました。しかし、一向に被害は衰えず、農家の生産意欲が減退して、棚田等の耕作放棄地が増大、山間地の農地が守れない状況になりました。これからは行政としても、今後とも有害鳥獣対策にはしっかり努めていきたいと思っています。

また、最近では住民の手によって捕獲した有害獣を活用した鹿カレー、猪カレー、燻製も商品化され、明るい材料にもなっております。

4. 今後の課題

現在、菴米地区で高齢化が進み労働力の確保が段々と困難になってきており、集落で維持することができず、棚田の中に歯抜けの遊休農地が目立ってきております。

今後、氷ノ山の棚田を近郊の市民農園として活用し、遊休農地の解消、都市との交流、リピーターから移住へと導き地域の活性化を図りたい。また、町としても地元と連携して棚田支援隊を結成して支援をしたいと考えています。

さらには、評判の名峰氷ノ山のしづくで育んだ「棚田米」の販売も、道の駅「若桜桜ん坊」を中心に売り出し、ネット販売を考えていく必要があると思う。

季節とともに変化を見せる、この雄大な自然の中での棚田は素晴らしい景観を写します。この自然をいつまでも守り続けたい。

会員通信

出前講座

「棚田から環境と食糧問題を考える ～持続可能な社会を後世へ～」

棚田学会理事 安井 一臣

平成21年3月15日、東京都葛飾区立「郷土と天文の博物館」環境講座において、表記演題で拙話をする機会を得た。国内外の棚田景観、我が国の農業と農村の現状、直面する環境問題と懸念される食糧問題、棚田の機能と持続可能性、という順で話を進めた。

米が作られ、手入れの行き届いた棚田は、人びとの心をなごませ、気持ちを落ち着かせる。田舎暮らしの経験がない人たちも、棚田にある種の懐かしさを覚えるという。それはなぜだろうか。稲田にそよぐ風を肌に受ける爽やかな感触か？名もなき草花を愛でる心地よさか？多くの生きものたちの命の賑わいを眺める楽しさか？それもあるだろう。だが、いちばんの原因は、長い歳月をかけて、米をはじめ多くの食べ物を作りながら暮らしを営んできた歴史と風土ではないか。少なくともここでは今日の命は保証されてきた。

アメリカのブッシュ前大統領が演説の中で、「食糧を自給できない国を想像できるか。そんな国は国際的な圧力と危険にさらされている国だ。アメリカ国民の安全と健康を守るため、輸入食糧に頼らなくていいことは、なんと有難いことか」と述べている（*1）。農産物の市場開放を声高に叫び、自国の存在感誇示のためには、軍事力の行使もいとわなかった、あのブッシュ前大統領でさえ、高い食糧自給力が国の礎であることを知っていたのだ。

翻って、我が国の食糧事情はどうか。私たち日本人が、米を食べたいだけ食べられるようになったのは1960年代からである。有史以来のことで、これは悲願の達成という快挙と言えるが、わずか半世紀前のことに過ぎない。

米は栄養に富む食べ物で、味噌や豆腐などの大豆製品、魚介類との相性も抜群である。1960年代当時、人々の暮らしは肥満や生活習慣病という言葉とは無縁であったに違いない。

食べ物不足に苦しんだ戦後の混乱期から奇跡的ともいえる復興と、それに続く経済発展に成功した我が

国は、世界に冠たる経済大国の地位を築きあげた。それは食糧・農産物や工業製品流通の国際化という道でもあった。私たちはその恩恵に浴し、世界各地から輸入した多種多様な食べ物を楽しみ、近代的工業製品を使いながら快適な生活を送っている。だがその陰で、日本農業は衰退の一途をたどった。その結果は、低い食糧自給率、農地の漸減、耕作放棄地の拡大、農家の高齢化と後継者不足など、多くの社会問題を顕在化させた。そして、我が国は世界最大の食糧輸入国になってしまった。多くの棚田がある中山間地域の疲弊は目を覆うばかりである。また農業が持つ多面的機能の低下は、あたかもボディーブローのように、徐々に国力を弱め、長年にわたり後世の人たちを苦しめ続けるだろう。

世界に目を転ずると、温暖化・気候変動をはじめとする環境問題、水資源の先細り、農地の劣化や減少、中国やインドで代表される中進国の経済発展と食生活の変化、増え続ける世界人口、生物多様性の低下など、直面する食糧問題は目白押しである。

さらに、サブプライムローンに端を発する昨今の世界経済の混乱は、原油や食糧価格の乱高下を招いた。各国政府の懸命な経済対策により、このところの食糧価格には落ち着きが見えているが、近い将来に懸念される食糧危機の構図が解消された訳ではない。世界経済が回復の軌道に戻れば、限りある食糧の争奪戦が再開されるだろう。食糧の輸出規制や食糧不足による途上国の政情不安の拡大も懸念される。

人は澄んだ空気、きれいな水、安全な食べ物なしでは生きていけないが、棚田にはこの三点セットが揃っている。それ故に、棚田は持続可能な社会のシンボルと言っても過言でない。棚田が持つ社会的価値の理解を促す一般市民への啓蒙活動は、棚田学会の大きな命題であると思う。棚田学会設立十周年記念事業の一環として検討されている折、出前講座の先駆け活動と位置付け、今後もこのような分野の活動を推し進めてゆきたい。

(*1) 食料自給率の「なぜ」末松広行著 扶桑社新書より引用

棚田に学ぶ

愛媛大学農学部教授 鶴見 武道

1 はじめに

私の住む山地の棚田には、今年も苗が植えられ灌漑水が張られている。夜には月が映り一層静かである。この地で9回目の稲作りが始まった。私は昭和53年から22年間勤めた千葉県立の農業高校を退職して、平成12年4月に愛媛大学にやって来た。平成13年には妻と娘もやってきた。私たちの住まいは、井内の棚田の一番上、標高520mの山地にある。昭和24年築の母屋と萱葺きの納屋、それに別棟の薪で炊く風呂がある農家住宅である。棚田が約25枚・6反ついていた。

この地での8年間の活動を通して気付いたこと、考えたことを記して、棚田保全に取り組む方々との連帯が深まることを願っている。

2 えひめ千年の森をつくる会の活動

私は千葉県での活動を引き継ぎ、平成12年4月から「えひめ千年の森をつくる会」の活動を開始した。「千年の森をつくる」とは、現存の森林が更新を繰り返しながら、千年後も森林であり続けるようにすることである。

千年の森づくりの柱は、(1) 森づくり (2) 世界に開かれた木炭学校 (3) 自然農法実践農場 (4) 安全な食の体験と農林産物の加工 (5) ありのままの自分との出会い (6) 未来循環型自給をめざした生活の提案、の6つから成っている。

定期的な活動は、毎月第1土曜日に西谷小学校の自然体験教室、第3日曜日に千年の森会員による森づくり、毎週水曜日に棚田保全活動を実施している。

3 棚田の活動

今年は田植え前の田作り時期にほとんど雨が降らず苦戦した。我が家の裏の田は、清水を使っているので雨が降らないと畦塗り、代かきが出来ない。乾いたうねに水が染み入るように入って田が水で潤わされる瞬間、水のありがたみを感じる。周りを1,000メートル級の山で囲まれた我が棚田は、森林との水循環を体で確かめられる好適地なのである。裏山に降った雨が地中にしみこみ、清水として湧き出し、その水が我が家の全ての生活用水と裏の棚田の水の全てをまかなっているのだ。

裏の田は、農薬、化学肥料、除草剤を一切使わずに作っている。いもぐさを主とする田の草の抑制に多くの時間をかけている。これまで、手作業、合鴨、綿マルチ、紙マルチ等をやってみて、現在は紙マルチと手作業に落ち着いた。我が家の農法は、主に有機無農薬で、一部自然農なのだが、そこには命の循環を確認できるという大きな喜びがある。自然は正直で、私たちの田にはたくさんの生き物がいる。イモリは1枚の田に50匹もいる。蛸も年々増えていて、

観客は私たちの家族だけなのだが、静かに舞っている。田に入ると手足がすべすべして、全身泥エステができるほどである。

4 棚田の役割

我が家の棚田はおいしい米を生産してくれると同時に様々な役割を果たしている。えひめ千年の森をつくる会の活動拠点、先述の地元西谷小学校の自然体験教室の場、県立学校10年教職経験者研修講座教科指導等研修(農業・水産部会1日)の場、愛媛大学農学部農山漁村地域マネジメント特別コース「農山漁村生活技術」や愛媛大学共通教育「ボランティア活動」の学習の場、免許状更新講習プロジェクト学習一現地で学ぶ21世紀生きる力教育にふさわしいプロジェクト学習一の講習会場になっていること等である。

5 地域との繋がりの深化

井内地区は、自然体験教室と共同で荒地地修復に取り組んでいる実績を県から評価され、中山間地直接支払い額が10割となっている。平成20年には井内地区で初めて新米祭りが開催された。シキミ畑で荒れている所の除草にも、えひめ千年の森をつくる会のメンバーが取り組んだ結果、いまでは美しい畑の姿を回復している。

6 おわりに

私は平成20年に新設された農山漁村マネジメント特別コースを担当して、「生物資源を育む農山漁村に自信と誇りをもって住むことができる人材の育成」にあたっている。山村に住み、自治組織の役を務め、ささやかではあるが稲を栽培しながら、ここを教育実践の場として活用させていただいている。百聞は一見に如かずの諺通り多くの者の学びが深まっている。棚田の機能を米の生産性のみで見るとすれば、その価値は計り知れず大きく、存続への取り組みもより大きくなるだろう。



わが家の紙マルチ田植え

第19回棚田学会現地研究会・見学会報告

「蕨野の棚田」

青山 淳二

1. 発表会（平成21年3月28日、
於 佐賀県唐津市相知町）

(1) 参加者は10名足らず。しかし顔ぶれは

集合場所の博多駅に着いてみると、参加者は10名足らずといつもより少ない。

しかし、研究会冒頭の中島会長の挨拶に、「参加者は今回10名足らずとやや少ないものの、会長、副会長はじめ担当理事も顔ぶれは揃っており、内容的に問題ない！」とのことであった。

(2) 優秀な佐賀大学大学院生の発表！

研究会は山路担当理事の司会で始められ、佐賀大学農学部五十嵐教授による主旨説明が行われた。

冒頭、蕨野の棚田に詳しい地元唐津市役所の方から、蕨野の棚田の概要と棚田開発の歴史的過程、開発手法等が、次に佐賀大学大学院農学研究科修士2年の首藤和音氏、そして蕨野の棚田の文化的景観選定にかかわったNPO法人の担当者、最後に地元唐津市役所教育委員会による発表が、下記のように行われた。

★プログラム★

コーディネーター：五十嵐 勉（佐賀大学農学部）

発表① 蕨野の棚田—その文化的景観としての特性

岩本英樹（唐津市役所）・五十嵐 勉

発表② 棚田の文化遺産化

—重要文化的景観の保護・活用を考える—

首藤和音（佐賀大学大学院農学研究科修士課程）

黒田祐一（唐津市教育委員会文化課）

木藤亮太（株式会社環境設計研究所）

・五十嵐勉

発表③ 蕨野の棚田の保全運動

中山茂廣（NPO法人「蕨野の棚田を守ろう会」

理事長）・川原増雄（蕨野区長）

コメンテーター：山路永司（東京大学大学院）

首藤和音氏の発表は、蕨野の棚田の文化的景観を地域資源として捉えようとしたものであった。長年、文化財行政の現場で仕事をしてきた私にとっては文化的景観とは文化財保護法で規定された重要文化財等と同様に指定・選定されるものではなく、地域資源として捉えた発表であったので、私には新鮮で、また問題点を的確に整理し、考察した優秀な発表と併せて印象的であった。私は学生のときの成績は優秀だったのですが、果たしてこのような歯切れのよい優秀な発表などしたことがあったらどうかと、昔を思いだしたり、ひとしきり反省してみたり。

最後に、山路理事、五十嵐教授も交えての質疑応答、活発な質問や意見が交わされた。「本来ならば、棚田学会の質問王伊東春海氏の質問が、当然あるところですが、残念ながら本日御欠席ですので2番手の私から質問させていただきます」と、私が切り出したところであったが、質問内容がややズレいたので取りやめました。それでも当日の懇親会では運よく首藤氏の隣席となったので質問してみたところ、「私はそちらの方面にはあまり詳しくないので」

と、あっさりかわされてしまいました。有意義な研究会、楽しい懇親会でした。

2. 見学会（平成21年3月29日）

見学コース：鶴殿の石仏群へ蕨野

(1) 鶴殿の石仏群は密教美術の宝庫！まるで東寺講堂・金堂の内陣のよう

見学会で最初に訪れた「鶴殿の石仏群」は、岩山の岩壁を利用して多数の磨崖仏が彫られていて、県の指定文化財となっている。ここには、胎内くぐりや擬死再生儀礼（故五来重 大谷大学名誉教授で初代修験道学会会長が命名した用語：修行者が仮死または擬死した状態から蘇り再生するという修験道儀礼）の行われた行場等がある。

私は、海老沢副会長に、中世この辺りはどこの荘園だったのでしょうか？と尋ねると「松浦氏支配です」とのお返事。更に市教委の担当者によると、松浦氏配下の相知氏がこの辺りを本貫地として勢力を張っており、室町時代には足利將軍を支えるために京都まで出陣したこともあったとのこと。相知町の名はこの相知氏によるものとのこと。

(2) NPO 法人の活躍で大勢の参加者が集う

蕨野の棚田では、ちょうど菜の花ハイクと屋台村のイベントが行われていて、大勢の参加者で賑やかなうえなし、駐車場は満車、路上駐車も一杯の状態であった。地の利のよい棚田ならともかく、九州の唐津市相知町の中山間地にこれほどの人が集まるとは…と感慨ひとしおであったが、これには蕨野の棚田のPRや支援活動を行うNPO法人の存在が大きい。そのひとつ蕨野棚田保存会は生産者農家の団体で、棚田米を生産して売る団体。PRや支援活動はNPO法人 蕨野の棚田を守ろう会 が担当している。いわば何重にも保存会があるようなものである。休日とはいえ蕨野にこれだけの集客力には、NPO法人の力のほどを思い知らされた次第である。しかも、帰り際に買おうと思っていた屋台村の商品は、売切れてしまい買えずじまいだった。

(3) まだまだ研究の余地多い蕨野の棚田

現地見学会は、交流広場の屋台村から石仏等の巡礼の行われていたという遊歩場を経て展望台、展望台から蕨野の棚田を一望した後、棚田を廻りながらバス駐車場まで降りてくるというコースであった。

展望台からは、佐賀大学の演習に使われている棚田と、その上に周囲三方を樹木林で囲まれ耕作放棄された棚田跡が見える。減反政策のときに、この箇所が対象となり、それ以来復田されることはなかったそうだが、佐賀大学では将来的にはこの復田も視野に入れているらしい。しかし、周囲の山林状況からは、猪がいつ出てきてもおかしくないようであった。

(4) 棚田博物館設置へ

蕨野の棚田へバスで向かう途中、棚田博物館設置が考えられている小学校跡の校舎が見えた。ここに棚田博物館を設置するという地元の住民合意は既にできているとのこと。この棚田博物館を拠点にして蕨野の棚田をはじめとする棚田の諸課題の実証的研究が行われ、併せて展示等を通じてPR・普及啓発活動が行われるとしたら、どんなに有意義なことか、と思わずにはいられなかった。

日本の棚田百選紹介

宮城県丸森町一沢尻の棚田

宮城県仙台市在住 村越 康彦

宮城県内には、東北で棚田百選に選ばれた6箇所うちの2箇所があります。栗原市（旧栗駒町）、丸森町がそれで、それぞれ県都仙台から離れた岩手県境、福島県境にあり、交通至便ではありませんが、国定公園、県立自然公園と観光地内にあり、独特の趣があります。

丸森町は宮城県最南端にあり、阿武隈川が流れ、緑豊かな自然に恵まれたところです。沢尻の棚田は、その阿武隈川の近くにあり、川沿いの国道349号から案内標識に従って急な道を登って数分のところ です。

棚田の前には案内板が設置されており、次のように「棚田の沿革」が紹介されています。

「沢尻の棚田は、総面積4.1ha平均勾配1/8で本地域の水田は、近世（江戸時代）～現代（昭和21～）にかけて、地区の人々が僅少な田・荒地を、鍬・もっこ・のみ・馬等を使用し人畜一体となって、石垣を積み現在の姿に整備したもので、天水・湧水を利用し数名の所有者が耕作等の管理を行い、畜産農家との連携により稲わらと堆肥の交換などによる有機農業を推進している。

沢尻地区は、標高420mの山頂から1.4Kmの距離で阿武隈川へ流入する川沿いに開墾された地区であり、急峻な地形から大雨が降ると瞬時に濁流となって河に流れ込む。

水田の持つ保水機能により、水の浄化及び水害の発生を未然に防止し、さらに石垣等、人の手による技が周辺の山々に溶け込み、優美な景観をなしている。」

沢尻の棚田は百選選定時（1999年）の概況によると56枚とのことですが、百選中の最北とされる石積みの棚田は、そのうちの十数枚です。開墾に際して掘り出した大きさまちまちの石が積み上げられています。石積みの棚田は一枚一枚が大きく横に30m程度で、石積みの高さは多くが2～3m、高いところでは5mくらいになっています。

数年前に棚田沿いの道路が改修され、来客者用の駐車帯が数箇所、先の案内板のそばには東屋も設けられました。国道から棚田の間には幾つもの案内標識が置かれるようになるなど、棚田を訪れる者にとっては、とても親切な配慮が感じられます。

これらの背景には、「大張沢尻棚田保全委員会」の働きがあります。美しい棚田の景観や自然環境、豊

富な山の幸、新鮮な農産物を地域資源と位置づけ、これらを有効活用した都市住民との交流により、棚田を守り、地区の活性化を図っていくことを目的として、百選認定後の平成12年に地区農家7戸により結成されました。そして、その活動は平成18年度農林水産大臣賞を受賞しています。

代表的な活動である、棚田での田植えから稲刈りなどを行う「棚田保全援助隊」農業体験ツアーは平成12年から実施され、今年も募集と同時に定員に達するなど人気があります。年四回のイベント、5月には開会式と田植えやたけのこ掘りなど、6月に稲生育状況観察や梅酒づくり体験など、10月に稲刈りやさつまいも収穫など、11月に閉会式や餅つきなどが行われています。数年前に開会式に訪れた際には、町長をはじめ役場関係者や地元農家の方々に参加者の家族・親類などたくさんの人が集まり、賑やかに田植えが行われていました。各回の行事に合わせて、テレビ局や新聞社などのマスコミの取材もあり、棚田や地域の良さが県内に伝えられています。

また、この地区ではほぼ全世帯が共同出資で設置した「大張物産センターなんでもや」という店舗があります。「なんでも売る、なんでもやる」というみんなの店ということで、収穫期には棚田米の販売もあります。また、棚田米はインターネットでも販売しています。

棚田を訪れた方が立ち寄るには、案内等がないなどがこれからの課題のようですが、棚田を観光資源としての産直市場の役割を今後期待できるかもしれません。

他の百選地の棚田と比較して、規模は小さい棚田ですが、世間の煩わしさと隔絶し、穏やかで心地よい気分させてくれる、そんな棚田の風を感じさせてくれるところです。



特別寄稿

上流は下流を思い下流は上流に
感謝する思想を国民運動に…

全国水源の里連絡協議会会長・綾部市長 四方八洲男

水源の里条例制定のきっかけ

京都府北部に位置する綾部市は、75%を山林が占め、市内にある195集落のうち、45集落（水源の里条例制定当時は38集落）が高齢化率50%を超える集落です。さらに高齢化率が60%を超え、集落存続の危機に瀕したところもあります。

こうした現状を市長就任以来8年間、気にはしながら見て見ぬふりをしていた部分がありました。

きっかけは、平成18年1月に3期目を目指す市長選挙期間中に、豪雪で積雪が1メートルを超える雪深い3つの集落を訪れたことでした。こうした集落の現状をある程度は把握していましたが、もう一度自分の目で確かめたいという思いから、集落の住民に集まってもらい話し合った中で、次のような発見がありました。

ある集落では、おばあさんたちが月に1回、2回の茶飲み話をする会をずっと続けている、2haほどのヤマブキ栽培で年間600万円以上を売り上げている、さらに毎年お盆に開かれる「夏まつり」には、出身者たちが家族や同僚などを連れて帰ってくる、普段は10数人、高齢化率100%の集落が来訪者であふれかえるのです。そして、ここにはこうした活動を取りまとめる積極的なリーダーもいました。

こうしたコミュニティを支える集まり、小さな産業、交流、そしてリーダーの存在という4つの要素があればどんなに過疎化した地域でもよみがえる可能性があるかと確信したのです。

3期目就任後はさらに集落代表者との話し合いを重ね、「水源の里条例」の制定を決意し、最初は諦めムードのあった住民たちも、「これを最後のチャンスと思ってもう一度挑戦してみよう」という機運が盛り上がりました。

条例は、①市役所から25km以上離れている、②高齢化率60%以上、③世帯数20戸未満、④水源地に位置する—5集落を対象に、定住促進、都市との交流促進、地域産業の開発と育成、地域の暮らしの向上の4つの振興目標を掲げ、各集落が主体的に実施する活動を支援していきます。

これまでに、住宅整備補助金・定住支援給付金や定住促進住宅の建設などによる定住促進対策や貸し農園、体験ツアー、農家民泊などの都市交流、とちの実やフキなど地域資源を活かした産業育成などに

取り組み、現在までに3世帯14人の若い家族が水源の里に移住を果たしました。

全国水源の里連絡協議会の役割

過疎化に歯止めをかけて、水源涵養、国土・自然環境保全のために水源の里を存続させる取組は、全国どこへ行っても同じような課題を抱えています。水源の里に暮らす住民が自立の精神と誇りを取り戻すことが重要で、そのためには「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」という思想、精神を国民運動として展開し、国へ働きかけていくことが必要です。

こうした目的で平成19年11月に設立した全国水源の里連絡協議会には、現在、北は北海道中川町から南は鹿児島県南さつま市まで168（発足当時は146）の自治体に加盟していただいています。また、棚田学会様をはじめ、全国の多くの団体にも協賛・連携をいただいております。

活動を始めて2年目の協議会では、11月5日・6日に島根県大田市・邑智郡で開催される全国水源の里シンポジウムの協賛や情報誌「水の源」の発行（年4回発行、年間購読1,000円。毎号、棚田学会様の記事を掲載しております。）、7月～8月の全国水源の里フォトコンテストの開催など水源の里集落の再生の取組を全国に広げる活動を積極的に行っています。また、平成22年4月から施行が予定される新たな過疎法に向けて、水源の里の再生を柱にした政策提言をまとめ、各政党、各省庁に働きかけております。

今後さらに、棚田学会様をはじめとして志を同じくする皆様と連携を図りながら、国に対して、水源の里の理念の普及と集落再生に向けた施策の展開を要望するとともに、河川上流部の水源を守る集落と下流の都市部との新たな共生関係を訴えていきたいと思っております。どうか、よろしくお願い申し上げます。



「新たな過疎対策の提言 公開討論会」には、加盟自治体のほか国や関係団体から60名以上の参加があり活発な意見が交わされました。

（平成21年2月28日、東京・明治大学にて開催）

書籍紹介

静岡県農林技術研究所編・著

『静岡の棚田研究～その恵みと営み～』

発行所・静岡新聞社（定価 1260 円）

A5 判 244 頁 ISBN 978-4-0546-5 C0061

弘重 穰

棚田は、米の生産はもちろんのこと、それ以外にも多面的な機能を持つことが知られている。今後、棚田に対する社会的評価が適正になされるためには、この多面的機能に関する理解と、そのための科学的データの蓄積が必要である。

本書は、主に静岡県内の棚田を対象として、棚田の多面的機能の科学的な解析に取り組んできた静岡県農林技術研究所の研究成果を、学術研究に馴染みのない一般の読者にもわかりやすい形で紹介したものである。

第一章では、「生き物」、「水環境」、「風景」、「文化」といった様々な側面からの棚田の研究成果が紹介されており、棚田の機能がまさに「多面的」であることがよくわかる。そしてその機能は、棚田特有の構造や営農形態によって発揮されていることも教えてくれる。

まず「生き物」については、棚田特有の畦の形態や水の管理形態などが結果的に多くの生物種のすみかとなる条件を作り出していることが解説されている。

「水環境」については、棚田の水質浄化機能などが紹介され、棚田が平坦地の田に比べて年間の窒素除去量が多いこと、そしてこれについても水の管理形態によるものであることが示されている。

また、棚田といえば景観に魅力を感じる人も多いと思うが、その景観は、傾斜・畦畔・枚数・田の形状・道・水路など、これら各要素の状態とその組み合わせによって地域ごとにそれぞれ違った特徴がつけられる。静岡県内にも様々な特徴を持った棚田景観が点在しているが、そのいくつかを取り上げられ、それぞれの特徴が紹介されている。

「文化」については、静岡県内の棚田の歴史、伝説、稲作技術が紹介され、また、田んぼが遊びの場・学びの場として子どもに与える影響についても調査結果をもとに解説されている。

このような多面的機能を守っていくためには棚田が適正に活用される必要があるが、第一章の最後には「未来へ向けて」と題して、棚田の活用の試みについて、実際の事例をふまえた解説がされている。

以上のような、人文・社会科学と自然科学の両側面からの研究成果を見ていると、棚田の多面的機能は、人と自然、双方の営為が織り成す機能であることを、あらためて認識させられる。

静岡県には数多くの棚田が点在し、農水省の「日本の棚田百選」に認定された 134 地区のうち 5 地区が静岡県内から選ばれているという。第二章からは、その静岡県の棚田が数多く紹介されているので、本書を持って静岡の棚田を巡ってみるのもおすすめです。写真と地図も載っていて、しかも巻末には棚田に行く時の服装も紹介されており、「ぜひ来てください」と誘われているような気がしてくる。また、静岡県内の棚田の保全に実際に関わっている人々からの熱い想いも載せられている。機会があれば保全活動に参加してみるのもいい。本書で勉強した多面的機能に関する科学的な知識をもって棚田に行ってみると、いつもと違った発見があるかもしれない。

（東京農工大学農学部千賀研究室）

事務局ニュース

平成 21 年度 棚田学会 10 周年記念大会

日程) 7 月 18 日 (土)

場所) 三越劇場 (東京日本橋三越本店 6 階)

◆平成 21 年度棚田学会総会 (11:00 ~ 12:00)

◆棚田学会賞授賞式 (13:00 ~ 14:00)

◆シンポジウム「里山と棚田を守るー歴史・論理・実践」
(14:30 ~ 17:50)

◇報告

1. 「里山・棚田の歴史と利用」

水野 章二 滋賀県立大学教授

2. 「棚田という風土について」

内山 節 哲学者

3. 「自然学校によって里山・棚田を守る」

広瀬 敏通 ホールアース自然学校代表

◇パネルディスカッション

コーディネーター…海老澤 衷

(棚田学会副会長 / 早稲田大学文学学術院教授)

パネラー…水野 章二、内山 節、広瀬 敏通

◆懇親会 不二の間 (日本橋三越本店 7 階)

会費 5000 円

理事改選について

今年度は理事の任期が満了になります。平成 21 年度棚田学会総会において、棚田学会会則第 9 条に従い改選を行います。理事の推薦 (自薦を含む) は、氏名、生年月日、略歴、推薦理由、住所、電話番号、E-mail を明記した推薦書を、事務局に郵送願います。推薦書は 7 月 10 日消印のものまでを有効とします。

「日本の棚田」写真展のお知らせ

棚田学会 10 周年によせて「日本の棚田」

棚田学会員であり棚田写真家である永田博義氏が東京と大阪で写真展を開催します。(入場無料)

●富士フィルムフォトサロン / 東京

(港区赤坂 9-7-3 フジフィルムスクエア 2F)

2009 年 9 月 25 日 (金) ~ 10 月 1 日 (木)

午前 10 時 ~ 午後 7 時 (最終日は午後 2 時迄)

●富士フィルムフォトサロン / 大阪

(大阪市中央区備後町 3-5-11)

2009 年 10 月 23 日 (金) ~ 10 月 29 日 (木)

午前 10 時 ~ 午後 7 時 (最終日は午後 3 時迄)

編集後記：10 周年記念誌の編集に携わり、寄せられた原稿にこの 10 年の月日の重さを感じる。棚田を残そうと頑張っている地元の方々、全国を飛び回った人々、その心が繋がって今の棚田学会があると…。7 月 18 日の 10 周年記念大会を、皆さんと共に祝いたいと思います。(T)